

(試算)

新型コロナウイルスによる2020年2～5月の入域観光客数の減少が県経済へ及ぼす影響

沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）は、新型コロナウイルスの感染拡大が県内観光に及ぼす影響について、2020年2月の見込みと3～5月の見通しを3月4日に公表した。航空業界やホテル業界などへの聞き取りを基に推計した結果によると、2月の見込みと3～5月の見通しを合わせた2～5月の入域観光客数は約170万人減少し、観光消費額は約1,125億円減少する見通しである。

当財団では、OCVBが公表したこの数値を基に当財団のNIAC計量経済モデルを用いて県経済への影響を試算してみた。

○ 試算の前提条件

- ・ 入域観光客数の減少数 170万人
- ・ 観光消費額の減少額 1,125億円

○ 試算結果

- ・ 名目の県GDPは、783億円減少する。
- ・ 実質の県GDPは、1.5%ポイント減少する。
- ・ 就業者数は、7,860人減少する。
- ・ 完全失業率は、0.4%ポイント上昇する。
- ・ 消費者物価は、0.2%ポイント低下する。
- ・ 税収（国税と地方税）は、151億円減少する。

(前提条件)

入域観光客数	▲170万人
観光消費額	▲1,125億円

(主要項目)

名目県GDP	▲783億円
実質県GDPの成長率	▲1.5%ポイント
就業者数	▲7,860人
完全失業率	+0.4%ポイント
消費者物価	▲0.2%ポイント
税収	▲151億円

(注1) ▲はマイナス。

(注2) 観光消費額は付加価値のみでなく、中間投入である仕入額なども含む。

(注3) GDPは、中間投入分を除く付加価値のみである。

(注4) 税収は国税と地方税の合計金額。

(注5) 試算はNIAC計量経済モデルを用いた試算。

(補注) 試算結果は、2～5月の入域観光客数、観光消費額の減少分のみが波及効果を含めて年間のGDPなどに及ぼす影響であることに留意する必要がある。例えば、年後半に観光客数が持ち直して増加に転じると、実際の年間のGDPの減少幅はその分小さくなる。

(NIAC計量経済モデル)

計量経済モデルは、GDPや民間消費、設備投資、就業者数などの経済変数の長期の時系列データを用いて、変数間の因果関係を表した連立方程式から成る経済モデルである。当財団のNIAC計量経済モデルは、沖縄経済の動きを反映させた構造方程式36本、定義式81本の計117本の連立方程式で構成されている。構造方程式で解かれる変数は実質民間消費支出や実質設備投資、消費者物価、就業者数などであり、定義式で解かれる変数は名目民間消費支出、名目設備投資、失業率などである。また、モデルの外から外生的に与える外生変数は46変数（人口や入域観光客数、為替相場、公共投資など）である。同モデルに政府消費支出や公共投資などの政策変数や原油価格、為替レート、入域観光客数などの与件変数の値を入力することにより、経済予測や各種のシミュレーションを行う。

(上席研究員 金城 毅)